

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 2

平成30年4月23日

西部農林振興センター浜田農業普及部

標 題 浜田管内におけるぶどうリースハウスの植栽が終了 ～早期成園化を目指して！～

(ダイジェスト)

JAしまねいわみ中央地区本部では、ぶどう産地発展とその担い手育成を図るため、国庫補助事業を活用してぶどうリースハウスを整備しました。今年度はハウス面積61.4a、5名（うち認定新規就農者2名）が入植され、4月6日に全戸の植栽が終了しました。

浜田市では、「浜田の顔となる3果樹」として大粒ぶどうが選定され、1億円産地に向けて様々な取り組みを行っています。当管内のぶどうは久代町と金城町とを中心に栽培面積5.7ha、栽培者24名で“ピオーネ”を中心にぶどう経営を行っています。当管内では、栽培規模や生産者の拡大が進んでおらず、既存農家の高齢化により産地規模の縮小が危惧されていました。

このたび、JAしまねいわみ中央地区本部において、平成29年度から2年間、産地パワーアップ事業（国）を活用してリースハウス整備を計画し、平成29年度はハウス面積61.4aが整備され、5名（うち認定新規就農者2名）が入植されました。

初年度のハウス建設が終了するのに併せ、3月16日にぶどうリースハウス植栽講習会を開催し、土壌改良の方法や植え付け方法について実演を交えながら指導を行いました。この日から順次植え付けが進み、4月6日にすべてのハウスの植え付けが終了しました。

浜田普及部としても、ぶどうリースハウスの早期成園化に向けた技術指導を行うとともに、次年度のリースハウス事業の植栽指導を行います。また、今後も担い手の育成や産地発展に向けて関係機関と連携し、目標達成に向けて支援を行うこととしています。



平成29年度ぶどうリースハウス



リースハウス植栽講習会の様子